

TECHNICAL GUIDE: ARCSERVE BACKUP R17.5

Arcserve® Backup r17.5

環境構築ガイド

インストール編

2018年 11月

REV: 1.2

arcserve®

目次

1. インストール環境の確認.....	4
1.1 動作要件の確認.....	4
1.2 バックアップ装置の確認.....	4
1.3 前提条件.....	4
2. インストールの準備.....	7
2.1 デフォルトのインストール パス.....	7
2.2 Arcserve Backup r17.5 のサービスに必要なアカウント.....	7
3. インストール.....	7
3.1 Arcserve Backup r17.5 ベース (バックアップ サーバ) のインストール手順.....	7
3.2 最新のパッチ、各種モジュールの確認.....	15
3.3 ライセンスの登録.....	16
4. アンインストール.....	17
5. オンラインヘルプ/マニュアル.....	17

変更履歴：

2018 年 2 月作成

2018 年 11 月 Arcserve サポート関連リンク修正

この資料は 2018 年 2 月 13 日現在の Arcserve Backup r17.5 製品リリース版をもとに記述しています。

すべての製品名、サービス名、会社名およびロゴは、各社の商標、または登録商標です。

本ガイドは情報提供のみを目的としています。Arcserve は本情報の正確性または完全性に対して一切の責任を負いません。Arcserve は、該当する法律が許す範囲で、いかなる種類の保証（商品性、特定の目的に対する適合性または非侵害に関する黙示の保証を含みます（ただし、これに限定されません））も伴わずに、このドキュメントを「現状有姿で」提供します。Arcserve は、利益損失、投資損失、事業中断、営業権の喪失、またはデータの喪失など（ただし、これに限定されません）、このドキュメントに関連する直接損害または間接損害については、Arcserve がその損害の可能性の通知を明示的に受けていた場合であっても一切の責任を負いません。

© 2018 Arcserve (USA), LLC. All rights reserved.

1. インストール環境の確認

1.1 動作要件の確認

Arcserve Backup r17.5 の動作要件や必要スペックは、下記 WEB ページを参照して下さい。

<https://support.arcserve.com/s/article/218380243?language=ja>

1.2 バックアップ装置の確認

バックアップ先として、テープ装置や VTL などのストレージ デバイスをご利用になる場合は、下記の点を確認してください。

- ・ サーバからテープ装置や VTL などの装置が正常に認識されていること
- ・ 「Arcserve Backup 認定済みデバイス」掲載のデバイスであること

認定済みデバイス:

<https://support.arcserve.com/s/article/115000596703?language=ja>

ストレージのファームウェアは、認定済みデバイス掲載バージョンか、上位バージョンであれば、原則サポート対象デバイスとなります。

- ※ ハードディスクへバックアップされる場合には、認定済みデバイスはありません。Arcserve Backup からフルコントロール権限でアクセスできるドライブや CIFS 共有フォルダであれば、原則サポートとなります。(重複排除の場合は、FAT/FAT32 フォーマットは未サポートです)

1.3 前提条件

Windows Server 2016/2012 R2/2012 環境に Arcserve Backup のベース製品 (バックアップサーバ) を導入する場合は、「.Net Framework 3.5 Features」が必要になります。

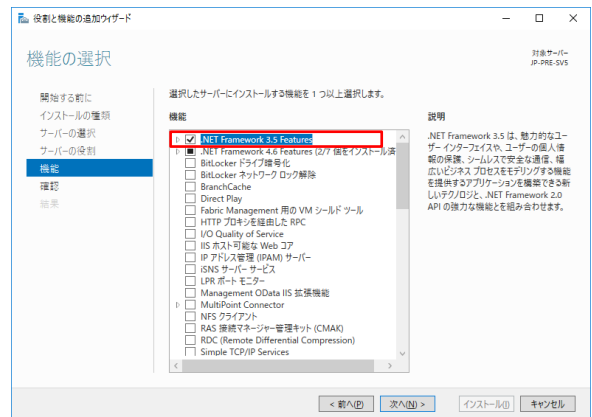
Windows Server 2008 R2/2008 環境にベース製品を導入する場合は、「.Net Framework 4.5.1」が必要になります。

「.Net Framework 3.5 Features」の導入方法 (Windows Server 2016/2012 R2/2012)

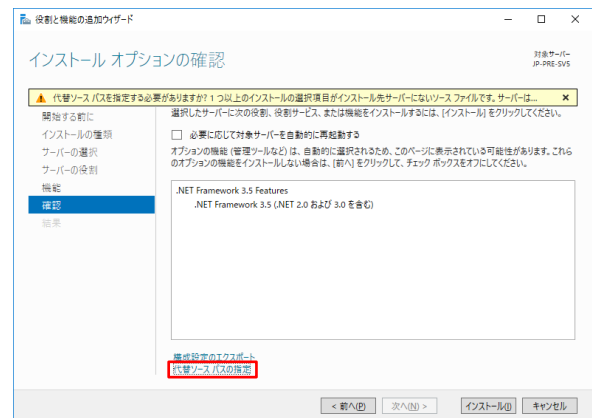
OS メディアを DVD ドライブにセットし、[サーバーマネージャ] から [役割と機能の追加] を選択します。

Arcserve Backup r17.5 for Windows 環境構築ガイド (インストール編)

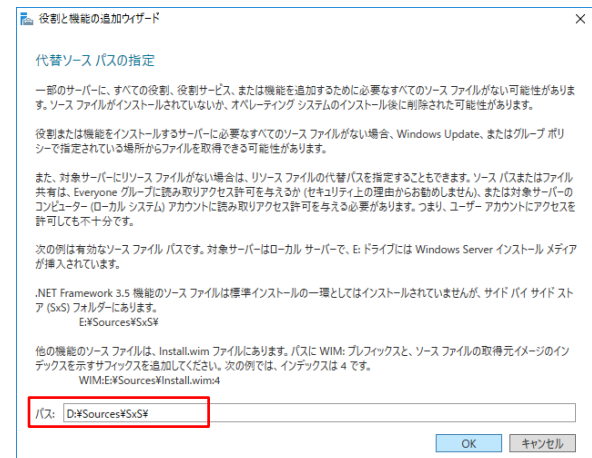
[.Net Framework 3.5 Features] を選択し、
[次へ] をクリックします。



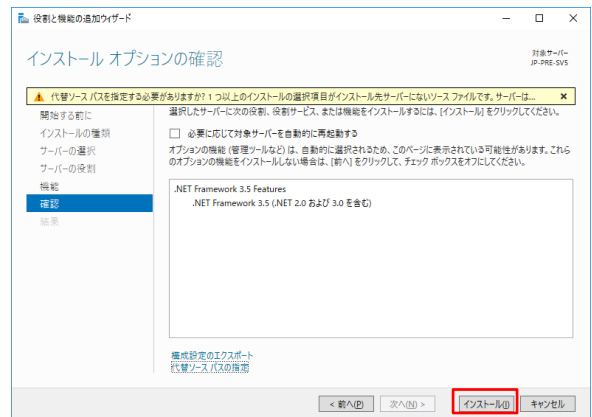
[代替ソースパスの指定] をクリックします。



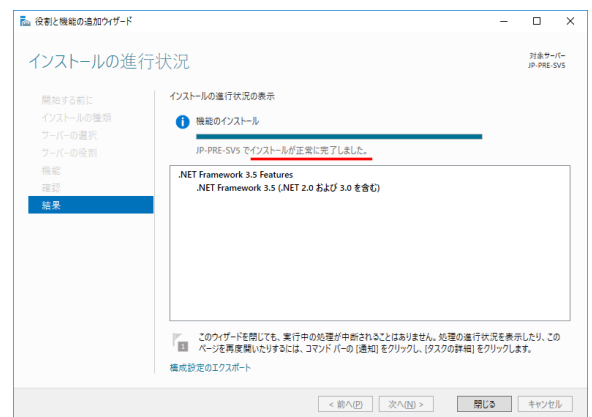
DVD ドライブを確認し、パスに
“DVDドライブ:¥Sources¥SxS¥” を入力後、
[OK] をクリックします。



[インストール] をクリックします。



インストール終了を確認し、[閉じる] をクリックします。



「.Net Framework 4.5.1」の導入方法 (Windows Server 2008 R2/2008)

バックアップ サーバを導入する環境にてインターネットに接続できる場合、Arcserve Backup のインストール時に自動的にオンライン接続し、「.Net Framework 4.5.1」と言語パックを導入します。

オンライン接続ができない場合は、日本マイクロソフト社の下記Webページより、「.Net Framework 4.5.1」と、「.Net Framework 4.5.1 言語パック」の2つをダウンロードし、Arcserve Backup バックアップ サーバのインストール前に該当サーバに導入します。

<https://support.microsoft.com/ja-jp/kb/2858728>

2. インストールの準備

2.1 デフォルトのインストール パス

Arcserve Backup r17.5 の下記フォルダをデフォルト パスとして導入します。

- ・ 64bit 環境の場合

C:¥Program Files (x86)¥CA¥ARCserve Backup¥

(Arcserve データベース: C:¥Program Files (x86)¥Microsoft SQL Server¥)

- ・ 32bit 環境の場合

C:¥Program Files¥CA¥ARCserve Backup¥

(Arcserve データベース: C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥)

2.2 Arcserve Backup r17.5 のサービスに必要なアカウント

「Arcserve Backup システム アカウント」は、ローカルの Administrators グループに属するユーザを使用します。指定されたアカウントには、Backup Operators グループ権限を自動的に追加します。このアカウントは、Arcserve Backup のサービスからハードディスク ドライブやローカル ネットワークなどのローカルリソースにアクセスするために利用します。

ドメイン環境では、Domain Admins グループ権限も必要となります。ドメイン名は 15 バイト (半角 15 文字) 以内で指定してください。また、ユーザの権利として「オペレーティング システムの一部として機能」「ローカル ログオン」「サービスとしてログオン」が必要となります。

3. インストール

3.1 Arcserve Backup r17.5 ベース (バックアップ サーバ) のインストール手順

製品メディアがお手元に無い場合、下記のサイトから製品のダウンロードを行ってください。

<https://support.arcserve.com/s/topic/0TO1J000000I46vWAC/arcserve-backup-product-downloads>

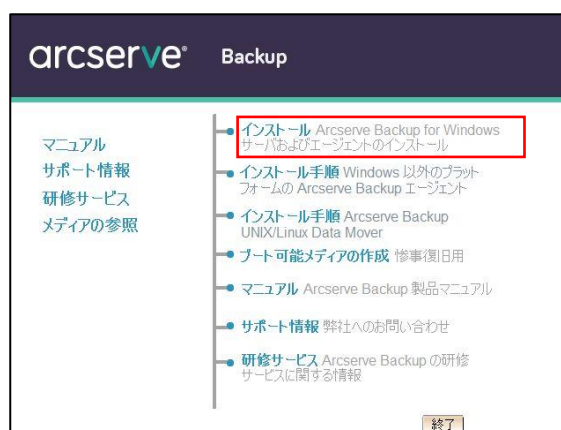
[インストール手順]

1. Arcserve Backup r17.5 をインストールするサーバに、Administrator または Administrators グループのユーザでログオンします。

2. Arcserve Backup r17.5 のインストール メディアからインストールする場合は、ドライブにメディアをセットします。インストーラが自動起動します。

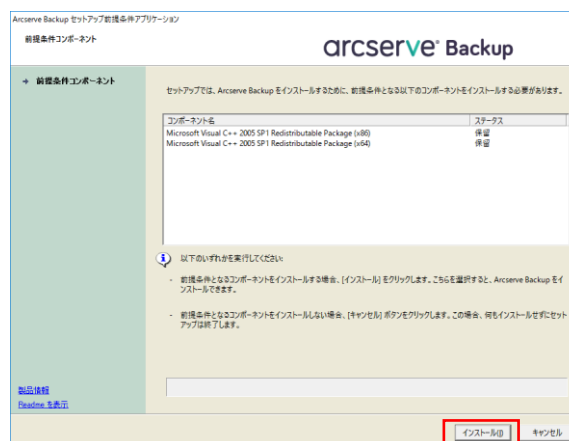
製品をダウンロードしてインストールする場合や、インストーラが自動起動しない場合は、メディア内、もしくはダウンロードフォルダ内のルートディレクトリにある“setup.exe”を実行してください。

3. [インストール Arcserve Backup for Windows サーバおよびエージェントのインストール]をクリックします。

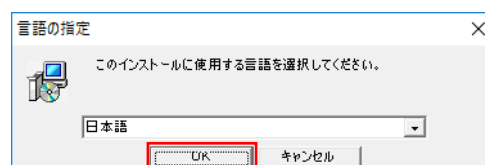


4. [前提条件コンポーネント] [インストール] をクリックし、前提モジュールを導入します。

※ この画面は、Arcserve Backup の前提条件コンポーネントが検出されなかった場合にのみ、表示されます。

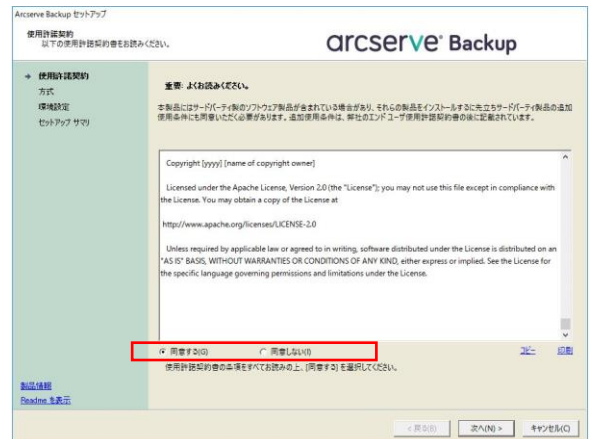


5. [言語の指定] “日本語” が選択されたまま、[OK] をクリックします。



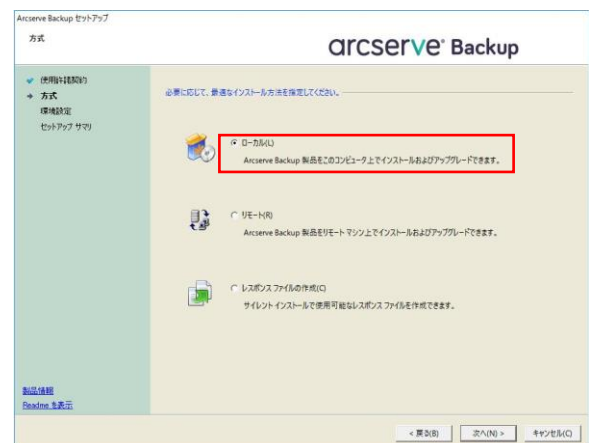
6. [使用許諾契約]

使用許諾契約を最後までお読みください。
同意できる場合は、[同意する] を選択し、
[次へ] をクリックします。



7. [方式]

このガイドでは、ローカル サーバへの新規
インストールを行います。
インストール方法に [ローカル] を選択し、
[次へ] をクリックします。



8. [インストールの種類]

種類から [カスタム] を選択した後、
[Arcserve スタンドアロン サーバ] を選択し
て [次へ] をクリックします。

※ Arcserve プライマリ サーバ / メンバ
サーバの詳細は、実装ガイド「付録 B : 推
奨事項を使用した Arcserve Backup の
インストールおよびアップグレード」をご
覧ください。

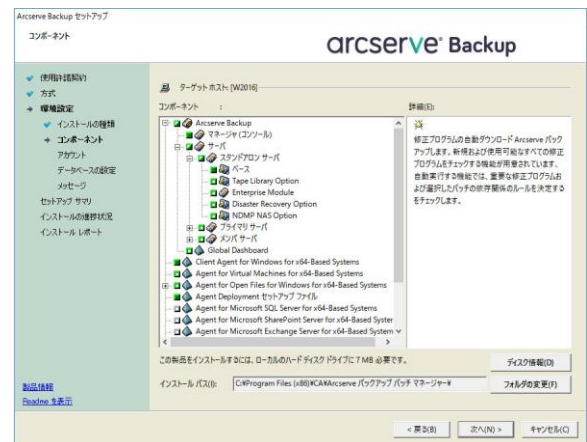


9. [コンポーネント]

前の手順で選択したインストールの種類に応じてコンポーネントがデフォルトで選択されます。追加で導入するコンポーネントがある場合、ここで選択します。導入パスを変更する場合は、コンポーネントを選択し、インストールパスを変更します。

Arcserve スタンドアロン サーバの場合は、下記コンポーネントが導入されます。

- ・ マネージャ (コンソール)
- ・ ベース
- ・ Client Agent for Windows for x64-Based Systems ※1
- ・ Agent Deployment セットアップ ファイル ※2
- ・ 診断ユーティリティ ※3
- ・ Arcserve バックアップ パッチ マネージャー



※1 バックアップ サーバ自身のローカル バックアップに必要なコンポーネントです。ローカル バックアップ分のライセンスは、ベース製品に含まれます。

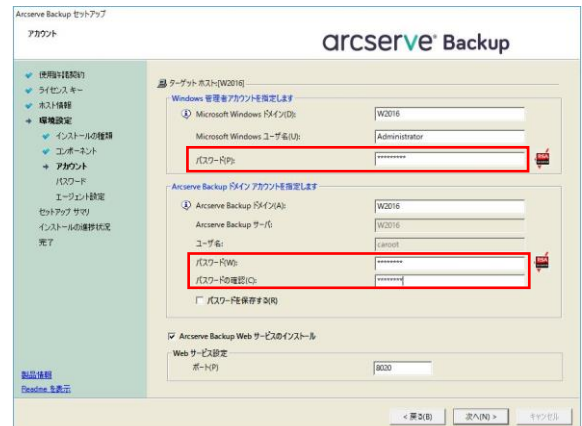
※2 Arcserve Backup インストール メディアを使用せずに、リモート マシンに対して Arcserve Backup エージェントを配布するためのアプリケーションです。このコンポーネントを導入するには、約 1.3 GB のハードディスク空き容量が必要です。導入しない場合は、チェックを外してください。

※3 トラブル シュートのため、Arcserve Backup の一連のログと、システム ログを収集できるツールです。詳細は管理者ガイド「第 9 章 : データベースの管理とレポート」をご覧ください。

※4 Arcserve Backup 製品のパッチを管理するためのコンポーネントです。詳細は「3.2 最新のパッチ、各種モジュールの確認」で後述します。

10. [アカウント]

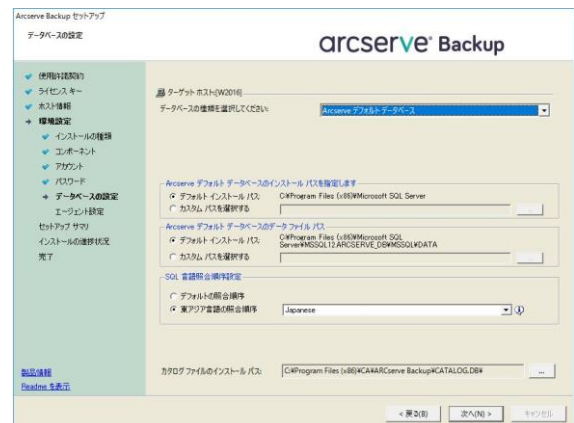
Windows 管理者アカウントのドメイン名 (ワークグループの場合はサーバ名) とユーザ名を確認し、パスワードを入力します。また、Arcserve 各種機能にアクセスする、「caroot」アカウントのパスワードを入力します。



※ [Arcserve Backup Web サービスのインストール] は、イメージバックアップ製品 Arcserve Unified Data Protection の “テープ コピー” タスクから、Arcserve Backup への連携機能を使うためのサービスです。連携機能を利用しない場合は、チェックを外すことができます。

11. [データベースの設定]

データベースの種類で [Arcserve デフォルト データベース] が選択された状態で [次へ] をクリックします。



- ※ Arcserve Backup r17.5 SP1 以降では、デフォルト データベースとして、Microsoft SQL Server 2014 SP2 Express Edition を導入します。
- ※ 「カタログ ファイル」はバックアップしたフォルダ/ファイル情報の格納に利用します。
- ※ Arcserve データベースに、製品版の Microsoft SQL Server を利用する場合は、[Microsoft SQL Server データベース] を選択します。この場合には、Arcserve Backup のインストール前に、バックアップ サーバ、もしくはネットワーク上のサーバに SQL Server をインストールし、SQL インスタンスの作成を行っておきます。

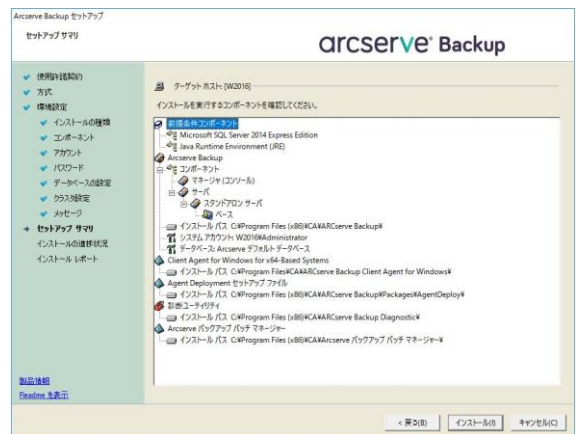
12. [メッセージ]

警告メッセージを確認し、[次へ] をクリックします。



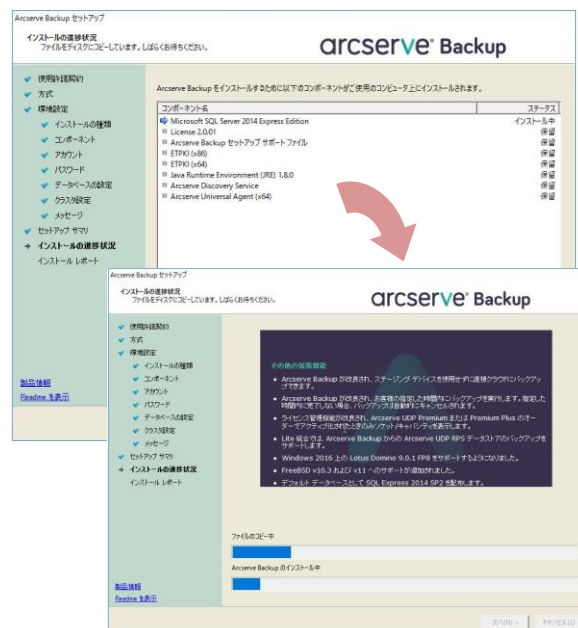
13. [セットアップ サマリ]

インストールするコンポーネントと、インストールパスを確認し、[インストール] をクリックします。



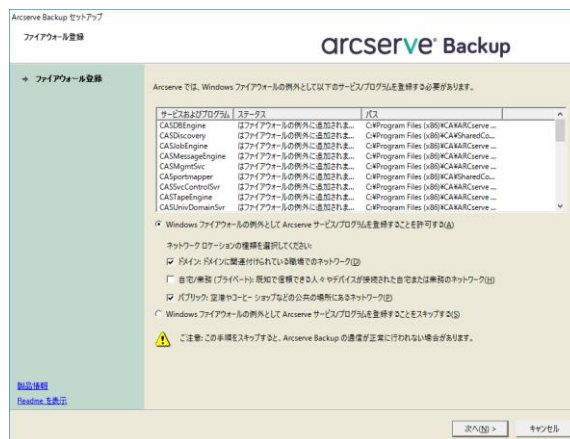
14. [インストールの進捗状況]

Arcserve Backup を利用するために必要なモジュールのインストールに続き、Arcserve Backup のコンポーネントのインストールが行われます。



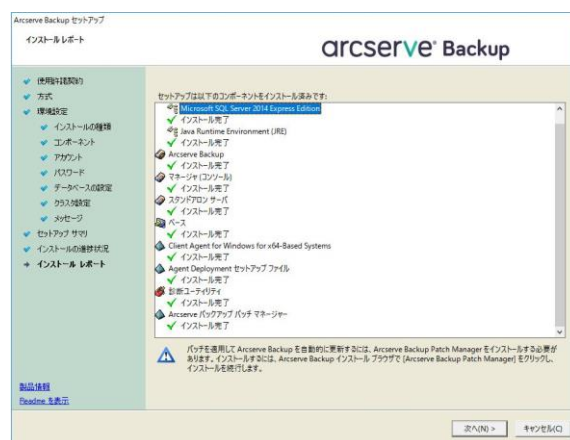
15. [ファイアウォール登録]

Arcserve Backup の通信を行うために、ファイアウォールの例外に登録します。[次へ] をクリックします。



16. [インストール レポート]

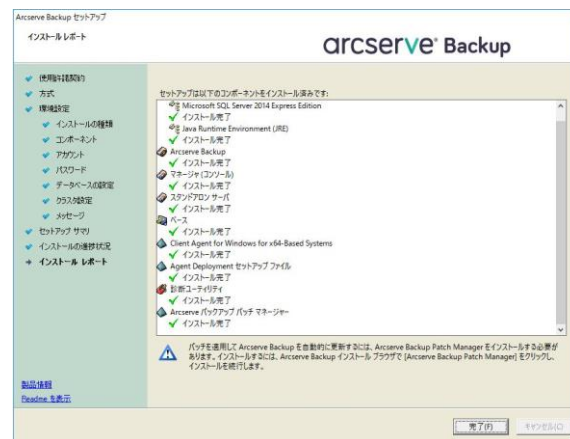
インストール結果を確認します。[次へ] をクリックします。



17. [インストール レポート]

[完了] をクリックします。

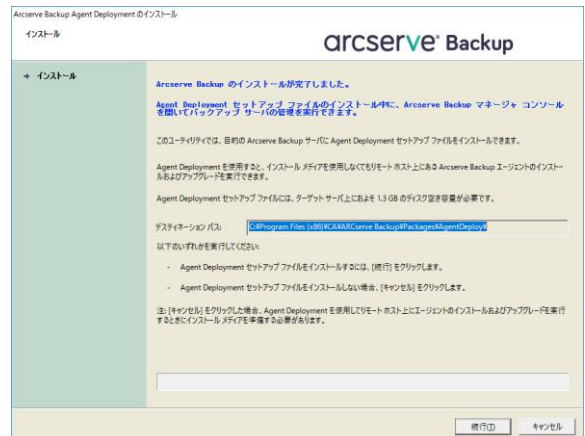
前述ステップ 9. [コンポーネント] にて、“Agent Deployment セットアップ ファイル” のチェックを外している場合は、後述ステップ 20. [セットアップ画面の終了] に進みます。



18. [Agent Deployment のインストール]

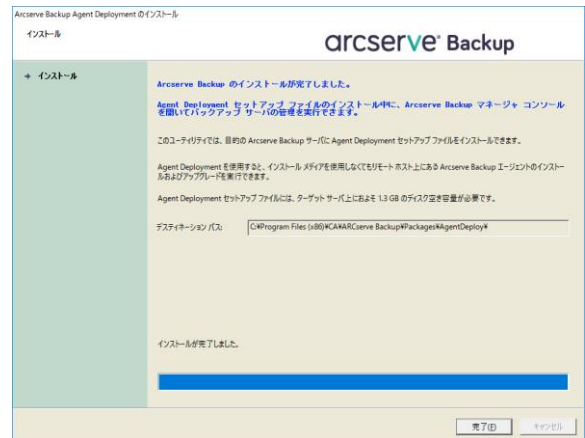
[続行] をクリックします。

※ Agent Deployment セットアップ ファイルは 1.3 GB 程のハードディスク容量を使います。インストールを中断する場合は、[キャンセル] をクリックします。



19. [インストール]

Agent Deployment セットアップ ファイルのインストールが終了します。[完了] をクリックします。



20. [セットアップ画面の終了]

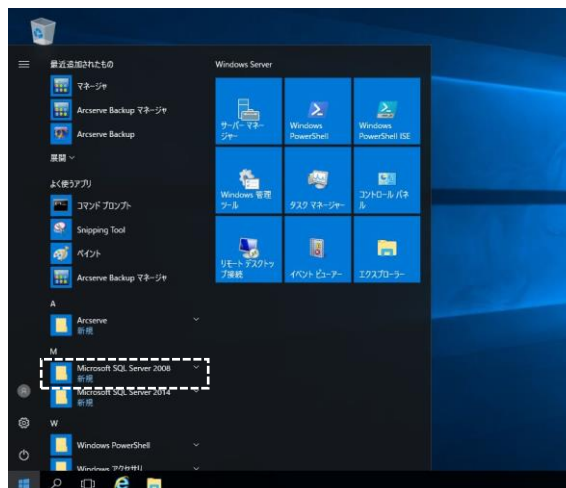
最後に [終了] をクリックします。



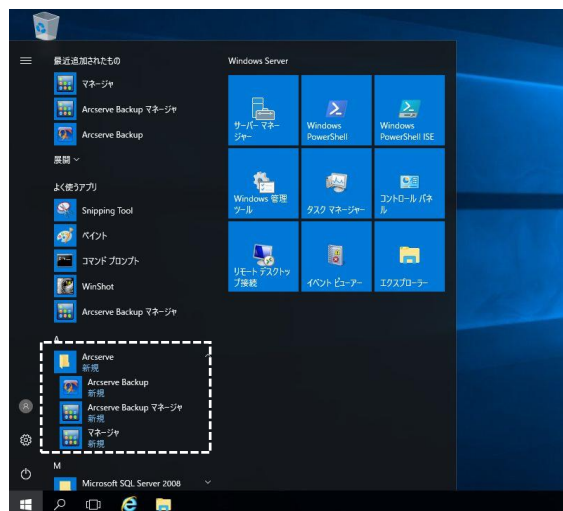
21. [スタート メニューの確認]

Windows Server 2016 に導入した場合は、
[スタート メニュー] の Arcserve グループ
アイコンの展開を確認します。

展開できない場合は、一度 OS をログオフし、
再度ログオンし直します。



再ログオン後に、[スタート メニュー] を確
認します。



以上で Arcserve Backup r17.5 のインストール作業は終了になります。

なお、インストールしたコンポーネントによって、OS 再起動が必要になる場合があります。

3.2 最新のパッチ、各種モジュールの確認

[最新のパッチ、各種モジュールについて]

インストール完了後、適用可能なサービスパックや修正モジュールがあるか確認してください。
確認方法は下記 URL から [ダウンロード (Patches)] にアクセスします。ご利用の製品および
バージョンのリンクをクリックすると、適用可能なモジュールを確認できます。

https://support.arcserve.com/s/topic/0TO1J000000I3ptWAC/arcserve-backup-patch-index?language=ja_JP

Arcserve Backup には、パッチ適用ツールの「Arcserve Patch Management Tool」 (以降 APM と記載) があります。APM はご利用の Arcserve Backup に未適用のパッチがある場合、自動ダウンロードでき、さらにはパッチの適用まで行うことができます。r17.5 SP1 以降では、APM はデフォルトでインストールされます。それ以前のバージョンで APM をご利用になる場合は、Arcserve Backup のインストーラを起動し、最初に表示される画面で「インストール Arcserve Backup Patch Manager for Windows」からインストールを行ってください。

APM の詳細は、「Arcserve Backup Patch Manager ユーザ ガイド」をご覧ください。

ユーザ ガイドは、下記「製品マニュアル」ページから [Arcserve Backup r17.5 マニュアル選択メニュー] にアクセスし、[パッチ マネージャ] を展開すると参照できます。

「製品マニュアル」ページ:

<https://support.arcserve.com/s/article/115000597983?language=ja>

[バージョンと Build 番号の確認]

Arcserve Backup マネージャでバージョンと Build を確認します。ツール バーから

[ヘルプ] - [バージョン情報] を選択して下さい。



3.3 ライセンスの登録

以下のサイトの手順にしたがい、ライセンスを登録してください。

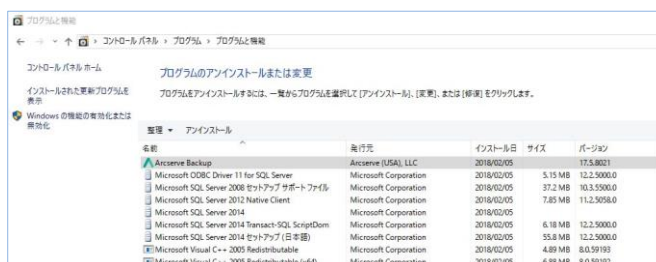
製品のライセンス登録方法のご案内

<https://arcserve.com/jp/jp-resources/licensing/>

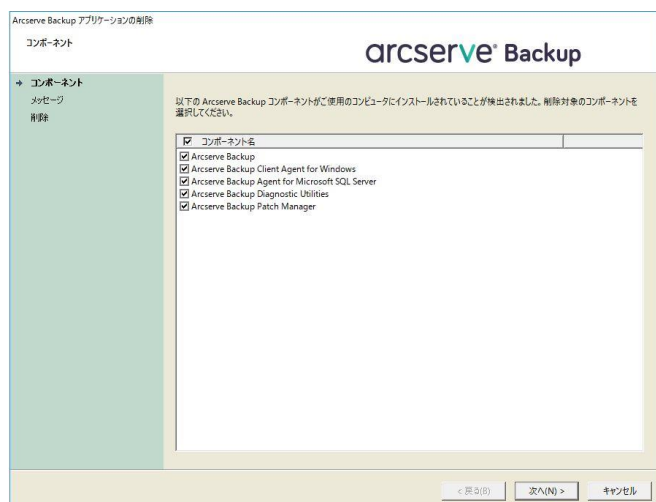
※ライセンス登録をしない場合、インストール後 30 日間はトライアルとしてご使用いただけます。

4. アンインストール

Arcserve Backup r17.5 をアンインストールするには、OS のコントロールパネルから「プログラムのアンインストール」を起動し、[Arcserve Backup] 上でダブルクリックします。



対象のコンポーネントを選択し、アンインストールを実施します。



※ Arcserve データベースとして使用している、Microsoft SQL Server Express Edition も削除する場合は、「プログラムのアンインストール」から対象製品を選択してください。

5. オンラインヘルプ/マニュアル

Arcserve Backup のオンラインヘルプやマニュアルは、インターネット接続環境で Arcserve Backup をご利用になる場合に参照できます。インターネットに接続しない環境でオンラインヘルプやマニュアルを参照するには、下記の技術情報にアクセスし、設定を行ってください。

Arcserve Backup r17.5 オンラインヘルプ/マニュアルをローカル環境で参照する方法:

<https://support.arcserve.com/s/article/115000850743?language=ja>